



提供会員募集のお知らせ



ファミリー・サポート・センターとは、育児の援助をしてほしい方と、できる方が会員となって、地域の中で子育てを支援する、たすけあいの活動です。このたび育児の援助ができる方（提供会員）の講習会を開催いたしますので、ぜひご参加いただき、活動を通して地域の育児支援にご協力ください。

平成30年度 提供会員養成講習会日程表

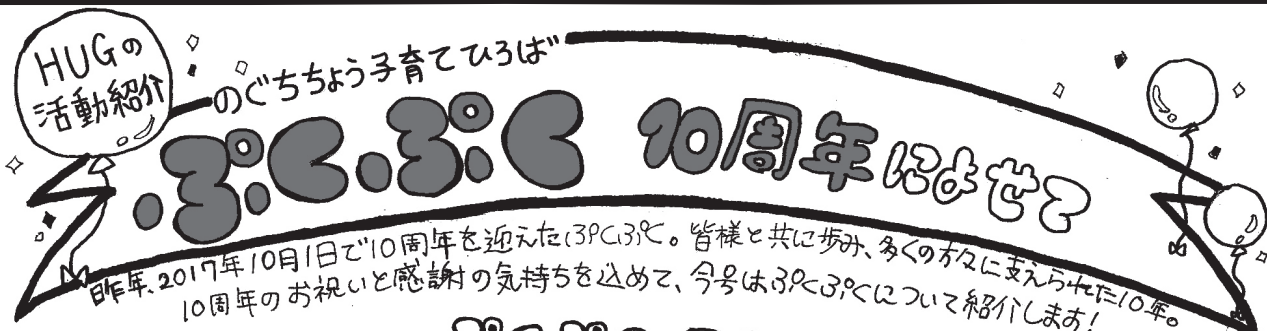
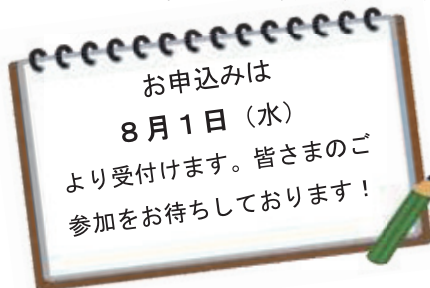
日にち	時間	講習項目	講師
9/19(水)	9:30~10:30 10:30~12:30	事業概要説明 子どものくらしとケア	アドバイザー 保育士
9/21(金)	9:30~12:30	保育の心 子どもの事故と安全	佐々加代子氏 (白梅学園大学名誉教授)
9/25(火)	9:30~12:30	応急処置と救急対応(普通救命講習)	東村山市消防署
9/28(金)	10:00~12:00	身体の発達と病気	小保内俊雅氏 (医師)
10/1(月)	10:00~12:00	子どもの心の発達とその問題Ⅱ	湯汲英史氏 (言語聴覚士)
10/4(木)	10:00~12:00	子どもの心の発達とその問題Ⅰ	馬場教子氏 (臨床心理士)
10/10(水)	10:00~12:00	子どもの栄養と食生活	塚原浩子氏 (管理栄養士)
10/12(金)	10:00~12:00	小児看護の基礎知識	東村山市保健師
10/17(水)	10:00~12:00	子どもの遊び	大森靖枝氏 (劇団風の子)
10/19(金)	9:30~12:30	援助活動を円滑に進めるために	提供会員・アドバイザー

- 【場所】 東村山市地域福祉センター1階 地域福祉活動室 (所在地はセンターと同じ)
- 【定員・資格】 市内在住の20歳以上のかたで、提供会員として登録後に活動できる方、先着50名
特別な資格は必要ありませんが、提供会員の登録には本講習会の受講が必要です。
- 【参加費】 無料 (ただし、普通救命講習はテキスト代1,400円が必要です)

お問い合わせ・お申込みは、お電話または直接センターにお越しください

〒189-0022
東村山市野口町1-25-15 東村山市地域福祉センター2階
東村山市子育て総合支援センター ころころの森 内

Tel 393-5137 / e-mail famisapo@waltz.ocn.ne.jp



10周年

10周年

平成19年10月にオープンした3PC3PC。皆様と共に歩み、多くの方々に支えられた10年。昨年10周年のお祝いと感謝の気持ちを込めて、今号は3PC3PCについて紹介しあます！

名前の由来

「3PC3PC」の愛称は、利用者さんの投票で決まりました。赤ちゃんのイメージと、正福寺の「福」をかけています。

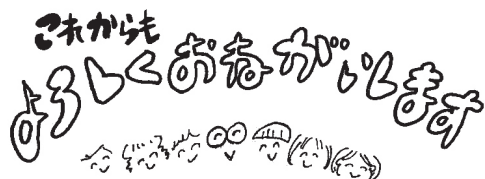


当事者が主役

毎月「3PC3PC」を開催。ママのリフレッシュ・子育て講座、親子の遊び、工作などを企画。準備の段階から利用者さんと作っていくイベントもあります。また、11月、おばあちゃん・おじいちゃん・子どもたちと共につくる「3PC3PC」であることを大切にしています。

のほろろ 地域交流

3~6月、9~11月に毎週金曜日、外遊びを実施。八国山の恵まれた自然の中で自由な自由な、五感を感じて思いっきり遊びましょう！
また、3PC3PCでは地域の方々の力をお借りし、さまざまなイベントに取り組んでいます。



元は10畳
さんの大きな
スペースが素敵



「ありのまます受け止め、一歩ひとりが安心し、お互いさまの気持ちを育む、はじめの一歩を応援する3PC3PC」でありたいと、地域子育てに向き合っています。

アットホームな小さな3PC3PC

3PC3PCは、月曜～土曜日、10時～16時まで、「いつでも誰でも行ける」常設の小さな3PC3PCです。その小ささゆえ、利用者さん同士がすぐ顔見知りになります。人と人との関係が作りやすい小さな場所です。



ベビーサロン

月2回、0才児のお子を持つ親向けのわらわたと仲間作りのサロンを開催。親子のふれあいツールになるよう、また赤ちゃんの心と体の発達のために、近い月齢を持つ親同士の出会いの場として、毎回多くの親子が集まってくれます。



雑記報 ■今年度もHUGの活動がスタートして3か月、いろいろなイベントが盛りだくさんです。食に関する活動「食ラボ 子ども企画」では、メンバーの子ども達と一緒に「ほん作りをしたり、「カレーの会」では麺で味付け、重ね煮など簡単に美味しくできるカレーを作ったり。家や学校とはまた違う子ども達の一面も見ることができました。いろんな居場所が地域にあるといいですね。■5月13日、富士見小で開催された「東村山子どもまつり」では、おなじみ「お好み焼きロール」400個をHUGメンバーが無心で焼き続けました(笑)。駄菓子屋さんと子どもくじも、毎年子ども達に大人気。手作り酔母パンのお試し販売もあり、今年も熱い一日でした。■6月24日「憲法ってなんだっけ？平等権を考えよう」講座を開催しました。基本的な権利のひとつ、平等権がテーマ。自由の森学園の社会科教師菅間先生による授業には小学生から70代までまさに老若男女が集い、「自分のアタマで考える」体験をしました。「憲法」と聞くと敷居が高い感じがしますが、例えば「電車には女性専用車両のみで男性専用がないのは差別？」など、具体的な例で男女平等を考えるとぐっと身近になります。時代によっても変わる私達の認識：答えのない問いを自分で考えるおもしろさが味わえる時間でした。ちなみに「世界男女格差ランキング」で、日本は141か国中114位。先進国の中で断トツの下位：(泣) ■今年も7月22日大谷稲荷公園「おいなりサマー」に出店します。サンバや音楽と共に自慢の「ジャージャー麺」を賞味ください！再び暑い日になりそうです。

リレーコラム
東村山の
子育て
いまむかし

受け継ぐ暮らしと 地域での子育て

R.Kさん (野口町)

長男 34歳 長女 31歳 次女 28歳

結婚してはじめて東村山にやってきました。嫁ぎ先は地元の家で、近くに一族60軒が住み、そのうち本家筋が10軒。我が家は新築です。80軒の家で墓地を管理しています。一族の行事は年に2回。1月の新年会と8月のお墓掃除は曜日は関係なく日時が決まっています。お墓掃除の後はお墓の前にゴザを敷いてお茶会に。今ドキ珍しいですよ。

冠婚葬祭や法事があれば手伝いに集まります。みんなで料理を作ったりしながら、お互い知りあってきました。正月、お盆、お彼岸にはお参りに本家を回ります。我が家にも夫の両親の仏壇があるので17、18人は寄ってくれます。地類のつながりもあり、例えば八坂神社の礼祭では山車の通り道にお神酒所ができるのですが、つい最近まで町ごとにふるまい料理やお酒の準備をしました。大きな鍋でみんなでたくさん作ると本当においしい！衛生面の問題で今は購入したのになりましたが、顔を合わせて作業をしながら縁をつないでいるのだなあとあります。お葬式の手伝いをしあったり、七五三など子どものお祝い事に訪ねたりします。

私の子育ては、そんな親類、地類の中で始まりました。両親と夫の住む家はお風呂は薪で炊き、こたつは練炭でした。薪割もやりましたよ。最初の妊娠をきっかけに義母がガス風呂や電気こたつにかえてくれました。出産は3人とも市内にあった山路産婦人科で。上2人のときは出産後に里帰りしました。産後ひと月ほどで東村山に戻ると、お隣のお産婆さんのおはあちゃんが毎日お風呂に入れて

来てくれました。義母が頼んでくれたのではないかと思いますが、恵まれていましたね。湯船に入れるようになるとお風呂は夫の役目。私は最後に一人でゆっくり入ることができました。断乳のときも湯船でお乳を搾りきっていたせいかお乳はトラブル知らずでした。もちろんすぐに横になるわけにはいかないけど同居の不自由さも少しはありましたし、食事作りや家事はすべて自分でやりましたが、義母はとてつもない人だったし子どもをみてくれたのでそれほど苦になりませんでした。夫は役所勤めで帰宅が早く子どもの相手をしてくれました。思い返すと特に赤ちゃんの頃は近所の義母の友達とか親戚や地類の知り合いなどいろいろんなの手を自然に借りていましたね。大きくなってくると毎日毎日、弁天公園へ行って遊びました。家の横の空き地やそばの公園は家から見える距離だったので放っておけたし、周りは親戚や知人はかりなので、どこの子どもみんな行き来して遊んでいました。お互いの家に入り込んでいることもしょっちゅうで、地域で育ったということなのかなと思います。幼稚園は2年保育で3人もピアノと水泳を習っていました。長男はサッカーも。送り迎えもしましたが、義母や近所の支えがあったので、今、全部自分でやらなければいけないママ達をみていると、本当に大変だなあとあります。長男が生後8カ月のときに義父が亡くなり家でお葬式を出したのですが、親戚が寄れるように家具を移動し、もう引っ越し状態。料理だけでなく、枕団子や線香の番などのしきたりもあり、これは大変でした。1年間続く法事ことも

全部自宅で行いました。10年後に義母が亡くなった時も家から送りました。それで家を建て替えた時、法事に40人入れる部屋と座布団を確保しましたが、さすがに現在では、一族の中でお店で行う家が増えていきます。ちなみに東村山といえはうどん。人寄せの締めには必ずうどんを出すのですが、手打ちでなくていいのでそれほど気負いはいりません。私自身は、農家の親戚に教えてもらいながらみそ作り、漬物作り、梅干し作り、天ぷらや料理を東村山で覚えしました。子どもをおんぶしながら大豆をつがしたり。88本の大根を干してたくあんも作るし、白菜漬けも大きな樽で作ります。手仕事は楽しいので今も続けています。また、地域のボランティア活動や、インディペンデンス市のホームステイ受け入れも20年近く続けてきました。「一族や地類のつきあいや家の仕事は大変では？」とよく聞かれますが、実家も人の出入りが多い家だったせいか、人が来てくれることが嬉しかったし、何より人との出会いって本当にすばらしく、東村山でのたくさんの出会いによってその後の人生が豊かになってきたと実感しています。ご縁もたくさんいただき、子育て支援のお仕事をかけていただいたり、ホームステイを受け入れたことで子どもたちが英語に興味を持って、留学したり…。生まれ育った町より東村山在住期間のほうが長くなりました。住みやすく、あたたかい人たちがたくさんいる東村山が、私は本当に大好きです。



おカ

ぶくぶくが始まる時にスタッフになり、今に至ります。10年前の私には年長と年少の子どもがいて、自分も一緒に悩みながらやってきました。現在の私とは言う、ほぼ親戚のおばちゃんのお気持ちです。田舎に帰ると「あら元気だった？」と声をかけてくる親戚のおばちゃんです(笑)ママ達が赤ちゃんを産んで、地域と初めて出会う場所が『子育てひろば』だと思います。初めての子育ては、本に書いてあるようなきれいな事だけではなく、楽しい時もあれば、辛い時も不安な時もあります。そんな時にふらっと立ち寄れて、ママ同士しゃべったり、スタッフと話したりして少しでも気が晴れる場でありたいと思っています。そして私はこれからもいつも変わらずそこにいるほぼ親戚のおばちゃんにいたいなあとと思っています。

ハナ

『子は継(かすがい)』という言葉を知っていますか？最近になってようやくこの“かすがい”が材木と材木をつなぎとめる大きな釘だと意味を知りました。ぶくぶくには、今日もこの“かすがい”さん達がご両親とやってきます。そしてまさにかすがいのように、自分のママ(またはパパ)と、お友達のママや地域の方たちをつなげていく様子をこのぶくぶくで体感しています。はじめは一つ一つの材木がつながり、それが家になり地域やまちが出来ていくように、共に笑って(たまには泣いて)、皆さんがお子さんと先へその先へと大いに歩いていくお手伝いが少しでもできれば、私は本当にほんとうに嬉しいのです。

マツオカ

私にとってぶくぶくは、“一期一会”の場所です。ぶくぶくというハコの中で、利用者さん、スタッフ、イベントのある時はゲストのみなさんの顔ぶれはもちろん、作り出される雰囲気もその日その時でいつも違う。「今日はどなたに会えるかな、初めてのかたもおなじみさんも、また来てくれたらいいな～」という気持ちでお迎えしています。オープン当初から今までの、その時々スタッフや利用者さんが築いてきた温かい雰囲気を大切に、過ごす時間をより心地よく、育児のしんどさを少しでもやわらげ、そしてより楽しめるようお手伝いできたらと思います。

ママキリ

子どもが生まれ誰も知り合いがない東村山に越して来た関西出身の私にとってぶくぶくは最初にできたホッとできる場所でした。それから子どもが幼稚園に入り縁があり働くことになりました。大切にしていることは「受け入れる」ことです。私自身がどんな事もぶくぶくに受け入れてもらいとても救われました。これからもありのままを受け止め、一人ひとりが安心して思いやりのあふれる場所であることを大切にしたいです。

ワザイ

ぶくぶくは私にとってパワースポットになっています。それはなぜかという...
①素敵な親子が集まり、
②有益な情報が入り、
③みんなとつながりを持てるからです。
もしかしたら、この3つはsns等で手に入るかもしれません。でもパワーがもらえるのは断然ぶくぶく！ママやお子さんの顔を間近で見て、気持ちや空間を共有できると力が湧いてきます。自分が数年前奮闘しながら子育てしていたことも振り返りながら過ごさせてもらっています。1人で抱えこまないで、「自分だけじゃない」とか「これでいいんだ」とか安心感と明日への活力がもらえる…そんなパワースポットぶくぶくとしてこれからも笑顔でお待ちします。

カンダ

ぶくぶくとは、ベビーマッサージの講師としてお手伝いをさせてもらったのが出会いでした。とってアットホームでスタッフも利用している親子もとても温かく、やさしい空気が流れている印象を受けました。そして3年前、スタッフとして仲間に入ることになり、この素敵な雰囲気を大切にしていきたいと思い、今に至ります。日々、かわいい子どもたちの成長を感じることができたり、ママたちの子育ての話を聞いたりするなかで、たくさんのエネルギーと幸せな時間を私自身がもらっています。そして、私にとってもう1つの幸せ。それは、スタッフがありのままの私を受け入れて、苦手なことを助けてくれたり、いつも褒めてくれることです。私にとってぶくぶくは、私を受け入れてくれた仲間との出会いとたくさんの人をつなげてくれた幸せいっぱい居場所です。

モリワタ

私にとってぶくぶくには楽しみがたくさんあります。今日は誰が遊びに来てくれるだろう？から始まり、いつも来てくれる子のちょっとした成長や、久しぶりに会った子の目を見張る成長も。それに、ママ達と子育て以外のたわいもないおしゃべりに、次のイベントはどんな事をしようかなどなど…。来てくれたママ達には、日頃がんばっている子育てからほんの少しでもほっと一息つける場所であってもらえる嬉しいです。これからも、喜びや楽しみ、悲しみや不安に寄り添い、ママ達の子育てを応援していけたらと思います。



特集

東村山市のぐちよう子育てひろば ぷくぷく
10周年によせて 2017年10月